

佳作



木で創る未来〜農業のウッドチェンジを支える木楽創研株式会社〜

やどかり

海の街 大船渡にはもう一つの顔がある。“森林”だ。市の面積の 8 割も占めているが、その半分が人工林、つまり人の手で植樹され、管理されている森林なのだ。主な樹種は、スギが約 7 割、アカマツが約 2 割ということである。これらの木は適期がくると伐採され、建築用材など様々な用途で利用される。木材需要量全体では、昭和 48 年をピークに減少を続けている。その内訳を見ると建築に利用される製材が減少する一方で、発電などの燃料用が増加し、せっかく育てた木が燃やされている状況である。

そんな中、製材としての木に新たな活用法を見出した会社がある。木楽創研株式会社だ。赤崎町に本社を構え、木製農業ハウスを製造・販売する。創業は平成 23 年だ。木製ハウスの特徴は、従来の合掌造りではない新しい構造の小屋構築体を生み出したことである。二本の梁を交差させることで三角形のトラス構造をつくり、強さを得るとともに従来の 1/3 の木材量で建物になるという画期的なものだ。

代表取締役の熊谷秀明氏は言う。

「木楽創研を創業する前は林業に携わっていた。その時代は、それなりに木材の需要があったが徐々に減り、さらに木材価格も下落して行った。そのため間伐が進まず、森林が荒廃する姿を見てきた。このまま放置できない、何とかしなければならぬとの思いから木製農業ハウス“キラクトラス”を開発し、特許を取得した。」

森林には使える木材が豊富にある。ならば木材利用の出口をつくれれば森をもっと良くできるのではないかと一念から生まれたキラクトラスは、震災復興と相まって少しずつ広がりを見せている。

「岩手県内を中心に北は青森県、南は長野県にキラクトラスを納めてきた。いま施設園芸での新規就農が増えており、全国から問い合わせがきている。施設園芸はパイプハウスや鉄骨ハウスが主流だが、木製ハウスも一つの選択肢になりつつある。」

手応えを感じていると言う。

確かに農業用ハウスといえば鉄製のパイプハウスか鉄骨ハウスを思い浮かべる方も多いだろう。しかし、木製ハウスはそうした常識に一石を投じる存在になるだろうと思う。なぜなら、あらゆる経済活動において環境負荷の低減とエネルギーの効率利用が地球規模での課題となっており、木を使うことはその課題解決の一助となり得るからである。

熊谷社長は言う。

「農業のウッドチェンジを進めることは、環境負荷の低減に役立つだけでなく、山主が経済的な利益を得ることで持続可能な森林の保全につながっていく。キラクトラスはそうしたことの一部を担うものだと思っている。」

木楽創研株式会社の活動は小さいかもしれないが、地球環境をよくするための大きな一歩と感じた。木で未来を創る木楽創研株式会社の活躍を期待したい。

※コラムの著作権は、すべて執筆者に帰属しています。無断での転載、使用はご遠慮ください。